

文京区立 森鷗外記念館NEWS

No.19



目次● 巻頭コラム「啄木と鷗外——石川啄木記念館の試み」森 義真(石川啄木記念館)／展示会場から／地域情報／次回展示のお知らせ
コレクション展「森家三兄弟——鷗外と二人の弟」／特集 ベルリン森鷗外記念館リニューアルオープン／展示報告／活動報告／ショップ便利
／カフェ便利／これからの催しもの／編集後記

7月1日(土) 11:00 ～ 12:30 鷗外講座 基礎編 森鷗外の旅路 第4回「東京市本郷区千駄木町57番地——千朶山房・猫の家」 講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場：講座室 料金：無料 定員：45名 申込締切：6月16日(金)	7月9日(日) 10:00 ～ 17:30 鷗外忌記念行事 ㊦ 鷗外の命日(7月9日)に展覧会を観賞された方に、オリジナルしおりをプレゼントします。
7月15日(土) 11:00 ～ 12:30 鷗外講座 基礎編 森鷗外の旅路 第5回「辿り着いた地」 講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場：講座室 料金：無料 定員：45名 申込締切：6月30日(金)	7月16日(日) 14:00 ～ 15:30 鷗外忌記念対談 「鷗外を通して個人と社会との関係を考える」 講師：小堀鷗一郎氏(医学博士)、倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事) 会場：講座室 料金：無料 定員：50名 申込締切：7月3日(月)
8月5日(土) 11:00 ～ 12:30 サマーイベント「夏のハーブティーを楽しむ」 講師：野田千春氏(ジャパンハーブスクール ハーブ・プロフェッサー) 会場：講座室 料金：1500円(材料費込・お土産付) 定員：30名 申込締切：7月21日(金) ハーブの効能を知り、夏を元気に美しく乗り切るための、ハーブの選び方、淹れ方などを学ぶワークショップです。	8月8日(火)、8月9日(水) 13:00 ～/ 15:00 ～ ※両日2回ずつ実施 文の京ワークショップ「観潮楼をつくろう」㊦ 会場：講座室 料金：300円(材料費込) 定員：各回先着20名 対象：小学生以下。未就学児は保護者同伴で参加可能。 観潮楼とは、鷗外が家族と共に半生を過ごした邸宅です。色々な材料で、自分だけの理想の家“観潮楼”を作ります。事前申込不要、持ち物不要でご参加いただけます。
9月9日(土) 14:00 ～ 15:30 展示関連講演会「森家の人々の芝居見物——森篤次郎(劇評家・三木竹二)を中心に」 講師：神山 彰氏(明治大学教授) 会場：講座室 料金：無料 定員：50名 申込締切：8月18日(金)	

催しは㊦以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。詳細は、チラシやHPをご覧ください。当館までお問い合わせください。

★応募多数の場合抽選とさせていただきます。

★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

これからの催しもの

◆◆上記イベントの申込方法◆◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

- ①**往復はがき** 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。
- ②**Eメール** 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jp までご応募ください。 ※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。 ※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

編集後記

本誌16号での有鳥記念館に続き、本号では石川啄木記念館よりコラムを寄せていただきました。森鷗外記念館同様、文学者個人を顕彰する施設は全国にたくさんあります。本誌では、鷗外とゆかりのある人物や同時代の人物を顕彰する施設を中心に、各館からコラムを寄せていただき、連携を築いて行こうと考えていきますので、今後どうぞご期待ください。

全国にたくさんある文学館の中でも最大の規模を誇るのが、目黒区駒場にある日本近代文学館です。昭和42(1967)年に開館した日本近代文学館は、今年で開館50年を迎えました。図書、雑誌、原稿など、実に約120万点に及ぶ資料を収蔵しています。6月24日から9月16日まで、没後90年の芥川龍之介を中心とした「教科書のなかの文学／教室のそとの文学——芥川龍之介『羅生門』とその時代」が開催されます。さらに本年は、鷗外の長女・森茉莉の没後30年でもあります。当館コレクショ ン展「森家三兄弟——鷗外と二人の弟」開催に合わせ、展示室1では当館所蔵の森茉莉自筆原稿を展示します。

近代文学界のスーパースターとも言える文学者たちも、今年記念年を迎えたのですが……詳しくは次号でご紹介します。

交通案内

●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分

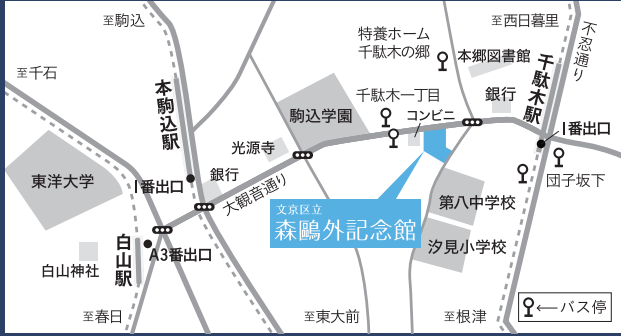
●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「団子坂下」下車 徒歩5分
 - ・Bーぐる千駄木・駒込ルート「18特別養護老人ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511
URL: <http://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00 ～ 18:00 (最終入館は17:30)

休 館 日 毎月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、
年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙蒸期間等



文京区立
森鷗外記念館
Mori Ogai Memorial Museum

巻頭コラム 啄木と鷗外―石川啄木記念館の試み

森 義真（石川啄木記念館館長）

私どもの郷土が生んだ国民的詩人であります石川啄木は、二六年二月という短い生涯にもかかわらず、歌集『一握の砂』や評論『時代閉塞の現状』など、近代文学史上に輝かしい業績を残しました。

その啄木の文学的・思想的な功績を讀え、波乱万丈の人生と作品を伝えるため、全国の熱心な啄木愛好者からの支援をいただいで、昭和四五年四月一三日、ゆかりの万年山宝徳寺の裏山の中腹に石川啄木記念館が開館しました。その後、啄木生誕百年を記念して昭和六一年五月三日、新たな飛躍のために現在の石川啄木記念館が整備・拡充されました。

記念館の展示室は、啄木の人生に沿った展示と企画展示のコーナーを設けています。啄木の人生とは、〔1〕啄木文学の揺籃・原点（浪民と幼少時代）、〔2〕文学のめばえ（盛岡中学時代）、〔3〕あこがれの世界（上京・盛岡新婚時代）、〔4〕「林中」の生活（浪民・代用教員時代）、〔5〕漂泊の旅（北海道漂泊時代）、〔6〕東京時代、です。なお、「林中」とは、浪民のことを示しています。

記念館の中庭には、旧浪民尋常高等小学校の校舎と旧齊藤家という農家の建物があります。どちらも、盛岡市の指定文化財です。小学校は明治一七年に建てられたもので、現在地に来るまでに三回ほど移築され、啄木の母校であるとともに自



旧浪民尋常高等小学校と「啄木とこどもたち」像

身が代用教員として教鞭を執った学校でもあります。旧齊藤家は、啄木が代用教員時代に間借りした家で、明治後期に建てられており、今では啄木の遺跡としてばかりではなく、当時の民家の様子を現代に伝える貴重な建物として残されています。

さらに中庭には、「啄木と子どもたち」のブロンズ像や啄木と節子の歌碑、旧館前には啄木を偲んで詠まれた与謝野寛と晶子の夫婦歌碑もあります。岩手県内はもとより全国各地から訪れるお客様、特に啄木を愛好するファンの方々に、たっぷりと啄木に親しんでいただいております。

開館以来館の運営を行っております財団法人の解散に伴い、平成二五年二月から盛岡市の施設となり、私どもの（公財）盛岡市文化振興事業団が指定管理を受けて運営しております。新しい体制になってから様々な新機軸を打ち出して啄木を顕彰する事業を行っております。企画展はもちろんのことですが、啄木ゆかりの地を巡るウォークとバスツアー、啄木の作品を盛り込んだワークショップなどは、地元の方々から啄木に親しみが持てるようになったと評価をいただいております。

私どもの特徴として、前記の自主事業に加えて啄木祭関連、啄木学級関連の共催事業にも取り組んでおり、職員五名の円滑なチームワークで諸行事を展開しています。そうした中で行いました移動展示「石川啄木と森鷗外、そして平出修」についてご紹介しつつ、鷗外と啄木との関係について述べたいと思います。

この移動展示は、平成二六年一月に盛岡劇場で演じられた二兎社の「鷗外の怪談」

とそのプレ・イベントに向けて、盛岡劇場のロビーに於いて行いました。「鷗外の怪談」についての解説は省きますが、プレ・イベントとして、劇作家で二兎社主宰の永井愛氏と私との対談を行いました次第です。そのねらいとしては、「森鷗外が主宰した『観潮楼歌会』には、与謝野寛の導きで石川啄木や平出修も参加した。その縁で、弁護士のは修は陸軍軍医の鷗外に、大逆事件の背景となった無政府主義などの教えを受けた。強権となっていく国家に抗する者と、その国家の中核にいる者との相関の底には、『文学』への相互理解があった。鷗外を軸とした明治後半から大正期にかけての文学と政治を巡る動きについて、修や啄木、寛の関わりなどを交えて語り合う。」というものでしたが、芝居の背景や様々なエピソードも交えて、自分としても楽しいトーク・イベントだったばかりでなく、満員の聴衆の方々から「面白かった」「早く芝居を観たい」などと大好評をいただきました。

さて、移動展示では森鷗外と平出修のみならず、石川啄木についてもその人となりを知りやすく写真と略歴で紹介するとともに、「啄木と森鷗外」「啄木と平出修」「森鷗外と平出修」、そして芝居の骨格を成す「大逆事件」についての解説パネルを設置しました。加えて展示ケースには、平出洗氏からお借りしました「観潮楼歌会草稿（一四と一六）」と、文京区立森鷗外記念館から画像提供いただきました「石川啄木葉書森鷗外宛（明治四一年九月二九日）」、それに文芸雑誌「スバル（復刻版）創刊号などを並べました。別会場のため、日常的には展覧者の動向を把握することができませんでしたが、展



石川啄木記念館外観

展示会場から

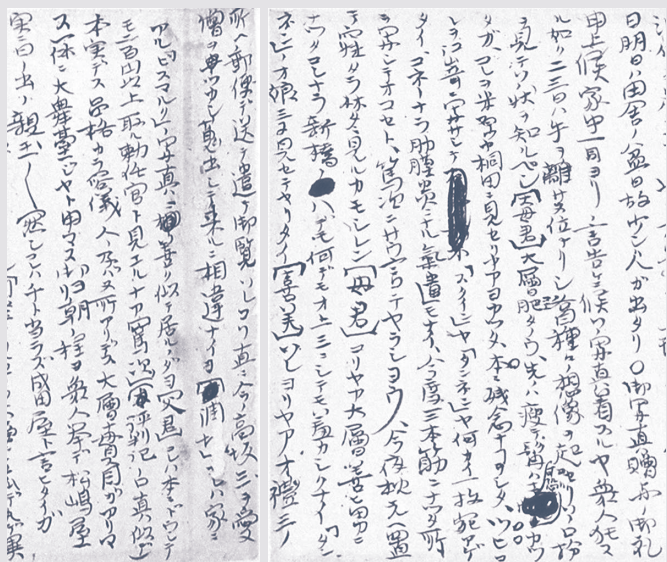
篤次郎筆鷗外宛書簡

明治18年8月日不詳（部分） [402083]

明治17年、鷗外は衛生制度調査のためにドイツへと留学しました。森家にとって、鷗外の留学はもちろん誇らしいことでしたが、鷗外の妹・喜美子によると、「誰も誰も心寂しい日が続き」（小金井喜美子『次ぎの兄』）たといいます。その寂しさを紛らわすように、家族は鷗外に便りを出すようになります。

家族からの便りは、ドイツで一人奮闘する鷗外にとって、励ましにも慰めにもなりました。中でも篤次郎の書簡は最も分量が多く、日記、近所の噂話や観劇記録、医学関連の論文の写しまで多岐に渡っています。書簡には、篤次郎の明朗快活な性格とサービスピ精神が垣間見え、観劇記録に至っては、後に劇評家として活躍する三木竹二（篤次郎の筆名）の原点を見ることができ

ます。本書簡では、鷗外から送られてきた写真を見た家族が感想を述べ合う一家団欒の様子が、篤次郎（当時18歳）の手によって生き生きと記されています。これより前に送られてきた瘦せた鷗外の写真に比べ、威風堂々とした姿に家族は安堵したようです。なお、「大母君」は祖母・清、「母君」は母・峰子、「喜美」は喜美子、「潤坊」は末弟・潤三郎、「父君」は父・静男、「篤次」は篤次郎自身を指しています。



…前略…○御写真贈与ノ御礼申上候家中一同ヨリノ言告ニ候…略…
〔大母君〕大層肥コエタノウ、先ノハ瘦デ舞ハエ可恐カツタガ、…略…
〔母君〕コリヤア大層善ヒ男ニナツタ、コレナラ新橋ノハデモ何デモオ上ニシテモ羞カシクナイ…略…
〔喜美〕ソレヨリヤア、オ礼スノ所ハ郵便デ送テ遣テ御覧、ソレコソ直ニ今ノ高坂スヲ愛憎ヲツカシ鬼出シテ来ルニ相違ナイヨ
〔潤坊〕コレハ家ニアル「ビスマルク」ノ写真ニ善ク似テ居ルノダヨ
〔父君〕コレハ本二ドウシテモ二百円以上取ル勤任官ト見エルナア
〔篤次〕〔評判記〕口真似デ本実デス、品格カラ容儀人ノ及バヌ所アリデス大層ナ貴目ガアリマス…後略…

潤三郎筆鷗外宛書簡

明治18年3月10日 [402104]

新	玉	御	新	也	三	也	御	新
ト	シ	ネ	キ	申	日	上	禮	見
ニ	シ	有	會	上	日	上	申	見
美	美	有	有	上	日	上	申	見

一方、まだ幼かった潤三郎（当時6歳）は、子どもらしい筆跡で、習字や漢字の練習、作文などを送りました。この書簡では、新年に鷗外より贈られた美しい絵に対してお礼を述べています。幼い弟の成長を、鷗外も微笑ましく思っていたことでしょう。

通信が困難な時代、また写真も貴重な時代に、鷗外は家族の様子や弟たちの成長を、家族からの便りを通して知りました。留学を終えた鷗外は、届いた書簡群を大切に持ち帰ります。鷗外にとって、家族アルバムのような、かけがえのない宝物だったのかもしれません。

これらの資料は、コレクション展「森家三兄弟―鷗外と二人の弟」でご覧いただけます。

地域情報

駒込大観音 四万六千日
ほおずき千成り市

7月9日（日）、10日（月）

森鷗外記念館は、東京メトロ千駄木駅より団子坂を上り切ったところにありますが、団子坂から白山方面に続く道を「大観音通り」と呼びます。この名前は、道沿いにある光源寺の観音像に由来があります。光源寺は、慶安元（1648）年より現在地に位置し、元禄10（1697）年、境内に御丈約8メートルの十一面観音像が造立されました。東京大空襲で焼失してしまいましたが、平成5（1993）年に御丈6メートルの観音像が再建されています。



光源寺では、「四万六千日分のご利益がある功德日（毎年7月9日、10日）に縁日が開かれ、ほおずきや風鈴が販売されます。その他、屋台が多数出店し、奉納パフォーマン

スも行われます。奇しくも、7月9日は鷗外の命日です。森鷗外記念館ではほおずき千成り市開催に合わせて、7月9日、10日の2日間、20時まで開館時間を延長します。ほおずき市にお越しの前、もしくはお帰りの際に当館にお立ち寄りいただき、ゆっくり

【画像提供：光源寺】

展示のお知らせ

コレクション展

森家三兄弟

—— 鷗外と二人の弟

鷗外には二人の弟がいました。

一人は5歳年下で慶応3（1867）年生まれの篤次郎、もう一人は17歳年下で明治12（1879）年生まれの潤三郎です。現在では語られる機会が少なくなっておりましたが、それぞれ劇評家、考証学者として活躍した弟たちです。



印鑑「参木之舎」 明治12年頃
少年時代の鷗外が、篤次郎と共に使用した手製の蔵書印

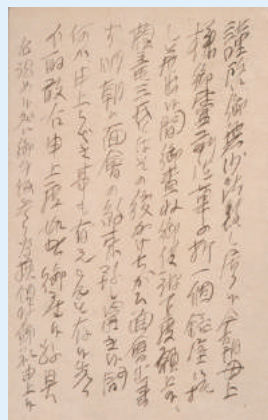
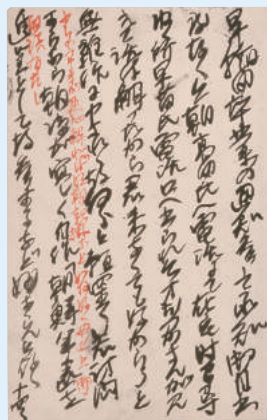
鷗外が「敏捷」と形容する篤次郎は、鷗外と共に西洋詩や演劇論を翻訳し、鷗外主宰の雑誌「しがらみ草紙」「めさまし草」などの編集にも関わりました。潤三郎は鷗外の史伝『伊澤蘭軒』『北條霞亭』などにおいて、鷗外の依頼を受け、史料蒐集や調査を引き受けました。また、鷗外の業績を後世に残すため、全集や評伝の刊行に努めました。

鷗外は二人を頼りにしていた一方で、長兄として、弟たちが困難に直面した際には、解決のために全力を尽くします。鷗外は自身と篤次郎について「こんな風に性癖の相違があつても、博士と弟とは喧嘩と云ふ程の喧嘩をしたことがない」（『本家分家』）と記していますが、三人の関係そのものを物語っているのかもしれない。

本年は篤次郎生誕150年にあたります。本展では、二人の弟たちに焦点をあて、彼らの生涯と業績を当館のコレクションを通して紹介します。互いを敬愛し、信頼しながら支え合ってきた森家三兄弟の絆をご覧ください。



森潤三郎 森於菟共編『鷗外遺珠と思ひ出』 昭和8年 昭和書房



右 篤次郎筆潤三郎宛葉書 明治38年7月14日消印
左 潤三郎筆鷗外宛葉書 大正6年3月27日消印

鷗外から受けた、史伝『淡江抽斎』に関する調査依頼に対する返答

会期●2017年7月7日（金）

—— 10月1日（日）

【会期中の休館日】 8月22日（火）、9月26日（火）

会場●文京区立森鷗外記念館 展示室2

開館時間●10時～18時（最終入館は17時30分）

7月9日（日）、10日（月）は20時まで開館
（最終入館は19時30分まで）

観覧料●一般300円（20名以上の団体…240円）
※中学生以下無料、障がい者手帳ご提示の方と同伴者1名まで無料※文京ふるさと歴史館入館券 パンフレット（押印入）、友の会会員登録ご提示で2割引※その他各種割引がございます。詳細は記念館HPをご覧ください。

特集 ベルリン森鷗外記念館

リニューアルオープン

ベルリン森鷗外記念館は2017年3月より、新しくなった2カ国語の常設展『森鷗外 異文化との出会い』をもって来館者の方をお迎えしております。

新規常設展は、明治維新に伴い激変する日本社会を背景に、岩倉使節団によるベルリン大学の視察にはじまる日独の特殊な学問・文化交流に焦点を当てたものになっております。入り口付近の廊下には、ベルリン大学に学んだ746名の日本人留學生の名前がリストアップされますが、鷗外や北里柴三郎のように個人的に研究者のもとで指導を仰いだ学生も含めると、その数は約1500人に及びます。展示は森鷗外という最も多様性に富んだ留學生の経歴を通じて、社会の変動期に異文化と触れる経験が、どう自己アイデンティティや視野を広げるのか、他者から学ぶこと、またその知識や方法論を自国に植え付け、国を内面から改革することはいかに重要なのか、といった今日にも通じる問題意識にせまっています。

常設展は、様々なレベルで来館者に語り

かけるものになっています。初めて鷗外の世界に出会う人のために一般的な知識を提供しながら、鷗外研究者や愛好家の方の期待にも添えるよう、新しいアーカイブ資料も展示しております。ベルリンの古地図上には、引つ張つてめくれる展示版が取り付けてあり、若い学生や生徒にも楽しく鷗外の世界を発見してもらえるよう工夫しました。もちろん展示の焦点は「鷗外とベルリン」にあてられており、鷗外のベルリン時代の衛生学研究や、帰国後に執筆された文学作品『舞姫』などが紹介されます。舞姫のテクストは、作中に登場する場所の写真とともに、2カ国語で相互に交差しながら記され、テクストそのものが語りかけられるような展示になっております。図書室では鷗外について更に知識を深めていただけますが、その手前の展示板では、鷗外が大学や学問の自由のために奮闘した様子をご覧ください。これは4月末に世界中で行われた「マーチ・フォー・サイエンス（March for Science）」など近年の学問を巡る動向を鑑みても、大変重要なテーマだといえるでしょう。最後の展示室では、鷗外の多様性をテーマに、



今年、フンボルト大学の創始者であるウィルヘルム・フォン・フンボルトの生誕250周年を記念する年です。今改めて、フンボルトの教育理念である「先ずは自らを育成し、自分のあり方で以って他者（と世界）に影響を与えようを読みますと、まるで鷗外の人生が、それを生きながら体現したもののように映るのです。

ベアーテ・ヴォンデ
（ベルリン森鷗外記念館副館長）
Mori-Ōgai-Gedenkstätte
Luisenstrasse 39, 10117 Berlin
https://u-hu-berlin.de/ogai

医師や文学者という側面だけでなく、ゲーテやクラウゼヴィッツの翻訳家として、美術解剖学の講師、あるいは演劇人、または異文化間のコラム執筆者としての顔など、鷗外の八面六臂の活躍をご覧ください。

ネット上のHPがリンクによって深い情報と結ばれていることから構成の着想を受け、常設展も一般的な事柄にはじまり、掘り下げるにつれ深い情報へたどりつけるよう構成されております。こうして故郷を遠く離れたこの歴史的な場所にて、自らの文化とその歴史について発見の旅に出ているのです。



Patricia Escriche&MOG

関連事業のお知らせ

展覧会期間中に関連イベントを予定しております。申込方法は8頁をご覧ください。

講演会

「森家の人々の芝居見物」

森篤次郎（劇評家・三木竹二）を中心に」

講師 神山彰氏（明治大学教授）
日時 9月9日（土） 14時～15時30分
会場 文京区立森鷗外記念館2階講座室
定員 50名（事前申込制）
料金 無料
申込締切 8月18日（金）必着

ギャラリートーク

展示室にて当館学芸員が展示解説を行います。

7月19日、8月23日、9月6日、20日
いずれも水曜14時～（30分程度）
申込不要（展示観覧券が必要です）

★家族でギャラリートーク

森家兄弟や家族の話題を中心とした展示解説を行います。

8月11日（金・祝） 11時～（30分程度）
申込不要（展示観覧券が必要です）

鷗外忌のお知らせ

7月9日は鷗外の命日（鷗外忌）です。

当館では毎年7月に一カ月限定で、鷗外の遺言書のオリジナルを観覧された方には、遺言の一節が書かれた特製しおりをプレゼントします。

鷗外の子ども達とドイツ

—— 於菟と茉莉

鷗外の子ども達にとって、ドイツはどのようなところだったのでしょうか。

長男・於菟そして長女・茉莉は正11年3月14日鷗外に見送られ東京駅を出発します。於菟は東京帝国大学医学部助教授としてドイツとフランスなどに留学、茉莉は留學中の夫・山田珠樹の居るパリへの旅立ちでした。当時於菟は32歳、鷗外は「お前はおれとちがつてじいになって行くから面白い事もあるまい」（森於菟『父親としての森鷗外』）と笑ったと言います。於菟は留學中、ベルリンの下宿やドレスデンの知己など、鷗外ゆかりの場所や人を訪ねています。鷗外は、その4カ月程後、7月9日に亡くなりました。於菟はベルリンで、茉莉はロンドンでその訃報を受け取りました。茉莉はその後ドイツを訪ねています。「…（前略）私達は伯林に二月を暮すと、ミュンヘンに、行つた。父の長く住んでゐた町へ来たことの感動が私を捉へて、巴里で薄れた胸の傷は再び鮮やかに、なつた。」（森茉莉『棘』）

茉莉は大正12年8月、於菟は大正13年9月に帰国しました。子ども達それぞれが、父・鷗外よりヨーロッパの香気を伝えられ、異国の地で父を振り返ったのです。



「歌舞伎」100号 故三木竹二君追善号 明治41年11月
篤次郎追悼号。三木竹二は篤次郎の筆名。

展示報告

特別展「鷗外の〈庭〉に咲く草花——牧野富太郎の植物図とともに——」

会期…2017年4月8日(土)～7月2日(日)

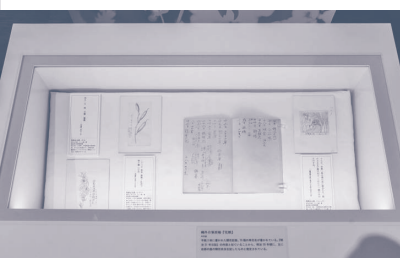
2017年春の特別展では、鷗外と草花をテーマにしました。

鷗外が草花を好きだったことは、鷗外の子ども達が遺したエッセイから知ることができ、研究者や作家の論ずるところでもあります。文学の中に草花が登場することは、万葉の時代より特に珍しいことでもありませんが、特筆すべきなのは、鷗外が書き表した草花の種類の多さです。その数500種以上、一人の作家が取り上げた数としては並外れており、鷗外の草花への高い関心がうかがえます。捉え方によっては鷗外の意外な一面ともいえる「草花愛」をキーワードに、鷗外の生活や作品世界を覗いてみることにしました。

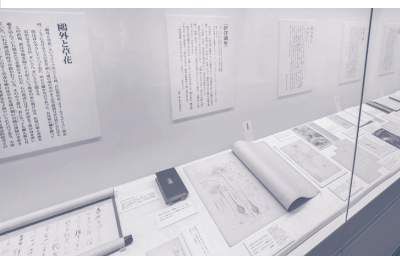


タイトルの〈庭〉には、「観潮楼の花畑」と「鷗外作品」の二つの意味を込め、鷗外が実際に目に留め、日記や手紙に記した草花と情景や想いを伝えるために作品に現わした草花とに分けて紹介しました。また、姿や印象など草花に対する鷗外の目線を実感していただくために、同時代の植物を並べたいと考えました。そこで、鷗外と同じく文久2年生まれの植物学者・牧野富太郎の目を通して記録された植物図を展覧することにした。

展覧会では、鷗外が筆記した植物名の傍らに、牧野が写し取った植物図を並べました。牧野植物図(20点と日記や書簡、原稿などの鷗外資料、性質の違う資料の共存は、一見違和感はありません。しかし、鷗外の簡素ですが正確な記録と、牧野の細部をも見逃さない精緻な描写を同時に見ると、二人の物語を見つめる態度について驚かされます。共通するのは、物事の本質を知るために対象物の背景をもうとする姿勢です。二人のこの探究心から、文学を通して植物を愛する喜びと、植物から時代や文化



鷗外自筆原稿「花暦」と、牧野の植物図を並べて展示。



鷗外作品に見られる草花を、解説パネルとともに展示した。



同時期に帝室博物館に勤務していたことなど、二人の接点を紹介した。

を理解する楽しさに
ついて、あらためて
気づかされました。
最後になりました
が、本展を開催する
にあたり、ご協力賜
りました関係者の皆
様に厚く御礼申し上
げます。



会期中2回講演会を開催しました。

①「鷗外が愛した草花

——森鷗外記念館 津和野の

庭園紹介を兼ねて」

日時…5月27日(土)14時～15時30分

講師…青木宏一郎氏

(ランドスケープデザイナー)

齋藤道夫氏

(森鷗外記念館 津和野「副館長

鷗外記念館の庭園計画について詳しく解説して

いただきました。植栽が育つのが楽しみです。

②展示関連講演会

「森鷗外と植物学者・牧野富太郎

——二人の接点は？」

日時…6月10日(土)14時～15時30分

講師…田中純子氏

(練馬区立牧野記念庭園記念館学芸員)

鷗外と牧野との接点について詳しくお話しいた
できました。点から線へ、その接点が浮き彫り
になりました。



森鷗外旧宅裏庭

あと、二、三年もすると旧宅の方も落ち
着いてくると思います。是非一度、森鷗外
記念館(津和野)に足をお運び下さい。

活動報告

子ども向けギャラリートーク実施

5月20日、特別展「鷗外の〈庭〉に咲く草花」関連事業として、当館初めての試みである「子ども向けギャラリートーク」を行いました。鷗外を「知る」「見る」「探す」をキーワードに、ワークシートに書き込みながら館内を巡る内容で、親子連れの方々にご参加いただきました。ご参加いただいたお子様の年齢はさまざまでも、熱心にワークシートにメモをとる姿は皆同じです。教科書類出の鷗外も、中学生以下のお子様には少し難しい作品が多いのですが、ご参加の方からは「分かりやすかった」という声が聞かれました。



今後も展覧会に合わせて、特別なギャラリートークを行います(展覧会期間中1回実施)。コレクション展「森家三兄弟」では、8月11日に兄弟や家族の話題を中心とした「家族でギャラリートーク」を実施します。是非足をお運びください。

鷗外講座 基礎編

「森鷗外の旅路」スタート

同日、こちらはお馴染みの鷗外講座基礎編第1回目を行いました。今年も倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事)を講師に迎え

文の京ワークショップ

「ボタニカルアートを描こう」開催

5月30日と6月6日の2回連続講座として、植物画家・石川美枝子氏を講師に迎えてボタニカルアートのワークショップを開催しました。ボタニカルアートとは、植物図鑑の標本絵のような植物学絵画を指します。初日は、

鷗外生前から残る当館庭園のイチヨウの葉がモチーフでした。拡大鏡やルーペなどで、葉脈がどのように連



た、「森鷗外の旅路」をテーマとした全5回の連続講座です。第1回目は「故郷からの旅立ち」として、津和野時代の鷗外にスポットが当たりました。『本家分家を教材に、森家の来歴や津和野上京時の鷗外の様子を、詳しくお話いただきました。』「鷗外は故郷・津和野を振り返ったのか?」という問題にも触れられ、倉本氏のお話しに会場が引き込まれていきました。リピーターの多い鷗外講座、ますます鷗外作品に触れたいくなるような時間でした。



た、「森鷗外の旅路」をテーマとした全5回の連続講座です。第1回目は「故郷からの旅立ち」として、津和野時代の鷗外にスポットが当たりま



ショップ便り

この春、オリジナルのマルチクリナークロスが新たに入荷しました!人気の高いモチーフである鷗外が描いたミミズクと、記念館ロゴをあしらったデザインの全2種類です。眼鏡拭きとしてのご使用はもちろんのこと、スマートフォンの画面拭きとして、また貴金属やカメラレンズのクリーナーにもご使用いただけ、さまざまな場面で活用できそうです。お手頃なサイズなので、ちょっとした贈り物にも最適です。



その他当館オリジナルの鷗外グッズも絶賛発売中です。中には残り僅かとなつてしまった商品もありますので、是非お早目にお買い求めください。

森鷗外記念館(津和野)だより

齋藤道夫(森鷗外記念館「津和野」副館長)

一昨年、開館20周年を迎えた森鷗外記念館(津和野)では、各種の文化事業の他に、記念事業の一環として、「鷗外の庭」づくり事業を展開しました。鷗外は、観潮楼の庭に花畑を作り、その花々の開花を記録した「花暦」を残しています。また、その作品にも様々な草花が登場するように、植物に対する深い造詣を持っていました。

当館では、そうした鷗外の新たな一面を多くの人に知って頂くために、平成27年度には森鷗外記念館周辺に、鷗外の作品に登場する草花を、平成28年度には、旧宅周辺に「花暦」に登場する草花を中心に、鷗外が観潮楼で育てていたであろう草花を植栽しました。特に記念館周辺は、植栽後二度目の春を迎えたので、植物も落ち着き順調に生育しています。この原稿を書いている今は(5月中旬)、玄関前に植えたシヤクヤクが見事に咲き誇っています。



カフェ便り

特別展「鷗外の〈庭〉に咲く草花」開催に併せ、モリキネカフェでは草花をモチーフとしたオリジナルの上生菓子をご提供しました。鷗外とゆかりのある草花全6種「ツツジ、フジ、スマイル、ナデシコ、ナツツバキ、イチヨウ」を、月毎に2種ずつご提供。それぞれの表情を見せるお菓子を、お得なドリンクセットでお召し上がりいただけます。



ナツツバキは別名「沙羅の木」と言い、鷗外が愛し、詩に詠んだ草花です。モリキネカフェから見える庭園にも、鷗外生前時と同様に沙羅の木が植えられており、花期の6月には今年も上品な「白き花」が咲きました。鷗外の愛したこの草花を、目と舌とでお楽しみいただきました。

7月7日からは昔なつかしい「クリームソーダ」を新たに販売します。日本で初めてソーダ水を販売したのは、明治35年に資生堂内に開設された「ソーダ・ファウンテン」(現・資生堂ホール)とされ、鷗外も資生堂にアイスクリームを食べに行ったことが日記で分かります。モリキネカフェではシーズン毎にさまざまなメニューが展開されますので、今後是非注目ください。